

自分事として考えよう

1 対象
中学生

2 ねらい

拉致被害は重大な人権侵害であることを知り、拉致被害者やご家族の思いを理解し、自分事としてとらえ、拉致問題を風化させず、解決に向けて自分にできることを考える。

3 準備するもの

○動画 北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」短縮版（政府広報オンライン）

<https://www.gov-online.go.jp/cas/202404/video-282758.html>

○ワークシート



4 解説

北朝鮮当局による日本人拉致は、我が国の主権に関わる問題であるとともに、重大な人権侵害です。国策定の「人権教育・啓発に関する基本計画」（第二次）において、拉致問題等についての正しい知識の普及を図り、国民の関心と認識を深めるための取組を積極的に推進するものと定められています。

今なお被害者が自由を奪われ、帰国できない状態が続いている現在、問題解決に向けてこれまで拉致問題について触れる機会の少なかった若い世代への啓発が重要な課題となっています。

ワークシート集第17集には、拉致被害者のご家族の思いについて考える活動があります。本ワークでは、拉致被害者である横田めぐみさんが中学生で拉致されていることから、同じ中学生としてめぐみさんの気持ちを想像することで自分事としてとらえることをねらいとしています。また、守られていない拉致被害者の権利を考えることをとおして、自分にできることを考え、実践しようとする意欲を育みます。

まとめとして、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会代表の横田拓也氏の言葉を紹介しています。家族としての思いを受け止めるとともに、北朝鮮当局以外の北朝鮮の人々をはじめとした朝鮮半島の人々や、日本で生活する朝鮮半島につながるのある人々への差別や偏見につながらないように留意することが必要です。

5 教科などとのつながり

社会、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動 など

6 進め方（展開例） 50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 7分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレーキング（5分） 「幸せな時間を共有しよう」</p> <p>①自分が楽しい時間・幸せだと思う時間を個人で考え、ワークシートの1に書く。</p> <p>②グループで伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを説明する。 ・P4〔学習の約束〕を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・4～6人のグループをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

	<p>・同じように「幸せな時間を過ごしたい」という思いを持って生活していたが、突然その生活を奪われた中学生がいるということを知らせ、アクティビティにつなげる。</p>		
展開 30分	<p>◆アクティビティ（30分） 「自分事として考えよう」</p> <p>①動画（14分59秒）を視聴し、北朝鮮当局による拉致問題を知る。</p> <p>②めぐみさんが奪われた権利、守られていない権利には、どのようなものがあるか考え、ワークシートの2に書く。</p> <p>③グループで伝え合う。</p> <p>④全体で共有する。</p>	<p>・拉致問題について理解するとともに、拉致被害者やそのご家族の気持ちを想像するよう促す。</p> <p>・自分たちが普段当たり前にできていることが、できない状況であることに気づかせる。</p>	<p>・動画</p> <p>・ワークシート</p>
	<p>・「めぐみさんに起こった過去の話」ではなく、同じ中学生として自分に起きたことだったかどうかを考えさせることで、自分事としてとらえられるようにする。</p>		
まとめ 13分	<p>◆まとめ（13分）</p> <p>①ワークシートにある「拉致被害者ご家族の思い」を読み、拉致問題を風化させないために、自分たちにどのようなことができるのかを考えてワークシートの3に書く。</p> <p>②まとめの話を聞く。</p>	<p>・今なお辛い思いをされ、拉致被害者の帰国を待ちわびているご家族がいることをあらためて確認する。</p> <p>・国の取組である「北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール」を紹介する。</p> <p>・北朝鮮当局以外の北朝鮮の人々をはじめとした朝鮮半島の人々や、日本で生活する朝鮮半島につながりのある人々に責任を帰する問題ではないことをおさえる。</p> <p>・生徒から出された意見や記述をもとにまとめる。</p>	<p>・ワークシート</p>
	<p>・拉致問題を風化させないためには、拉致問題について一人ひとりが理解するとともに、自分事として考え、関心をもちつづけることが大切である。</p>		

<参考資料など>

・「人権学習ワークシート集 一人権教育実践のために 第16集（小・中学校編）」神奈川県教育委員会（令和2年3月）

・政府 拉致問題対策本部ウェブサイト「北朝鮮による日本人拉致問題」

・かなチャンTVサブチャンネル「拉致問題を考える特別授業」

<https://www.youtube.com/watch?v=HhDJICKGEVs&t=2735s>



・かなチャンTVサブチャンネル「拉致問題 — もし、大切な人が突然いなくなったら」

<https://www.youtube.com/watch?v=vBwrzcT571U>



じぶんごと かんが
自分事として考えよう

() 年 () 組 () 番 名前

1 自分が楽しい時間・幸せだと思える時間を書き出してみましょう。

Blank box for writing answers to question 1.

2 めぐみさんが奪われた権利、守られていない権利は何でしょう。

Blank box for writing answers to question 2.

3 拉致問題を風化させないために、自分たちにできることは何でしょう。

Blank box for writing answers to question 3.

◆ 拉致被害者ご家族の思い ◆ 北朝鮮による拉致被害者家族連絡会代表 横田 拓也さん

※令和6年12月に県立城郷高等学校において行われた「拉致問題を考える特別授業」の講演の一部を編集して紹介します。

もし、拉致被害者の方々にこうした拉致事件が起きなければ、どれだけ多くの自己実現や社会貢献ができたろうかということもいつも思います。めぐみは13歳で拉致されたから、部活のバドミントンで選手になれたかもしれないし、高校や大学に進学して会社に入って、恋人ができて、家庭を持ってお子さんを授かって、いろいろなことができたのではないかと思います。今日こうして同い年くらいの皆さんを見てみると、本当にこういう未来があったのではないかといつも思います。土日とか駅で、空港で、修学旅行で集まっている女の子たち、ジャージを着てこれから部活動に行く女の子たちを見ると、めぐみにもこうした当たり前の幸せな人生があったのではないかといつも思いますが、そうした当たり前の自由を奪われたまま拘束されている、その不便さをぜひ皆さんにわかってほしいと思っています。

(・・・中略・・・)

しかしながら、皆さんにぜひ間違っほしくないのは、人権侵害している相手の国ですけれども、2,500万人の北朝鮮国民が悪いわけじゃないということもわかってほしいと思います。一部の政府の一部の人間が拉致事件、人権侵害を行っているだけであって、多くの北朝鮮国民の人々は悪くないということです。そして日本にも在日の方々が住んでいらっしやいます。その人たちを差別したり、非難したりすることは間違っている。私は許せない相手ではあるけれども、そうした差別が助長されるようなことがあってはいけませんから、皆さんもここはぜひ間違えないで、この人権問題を真正面から受け取ってほしいと思っています。

北朝鮮による拉致問題とは

○1970年代から80年代にかけて北朝鮮による日本人拉致が多発し、現在、政府は17名を拉致被害者として認定しています。また、政府が認定した拉致被害者以外にも、拉致の可能性を排除できない人たちがいます。

○平成14年9月の第1回日朝首脳会談において、北朝鮮は日本人を拉致したことを認め、謝罪しました。その後、5人の拉致被害者が帰国されましたが、残りの拉致被害者は帰国の途についていません。

出典：神奈川県文化スポーツ観光局国際課ウェブページ

(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/k2w/cnt/f1091/>)



拉致問題の解決のためにできること

生徒が拉致問題の解決のためにできることとして、「拉致問題の事実や経緯を正しく学ぶ」、「被害者やご家族の思いを知り、感想や考えをまとめる」、「学んだことを家族などと共有し、話し合う」「ポスターや新聞づくりなど啓発活動に取り組む」などが考えられます。

国では、「北朝鮮人権侵害問題啓発作文コンクール」を毎年実施しています。個人で取り組むことはもちろんのこと、人権教育の一環として学級や学年、学校全体で取り組むこともできます。ここでは、このコンクールについて紹介します。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール

政府拉致問題対策本部では全国の中高生を対象に、拉致問題関連の映像作品、舞台劇の視聴や拉致問題関連書籍の読書等を通じて拉致問題を知ってもらい、拉致被害者や拉致被害者御家族の心情を理解するとともに、拉致問題解決のために自分に何が出来るのか、何をすべきかについて深く考える機会とすることを目的として、北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクールを実施しています。

作文コンクールに取り組むにあたって活用できる視聴覚映像

ワークで使用したアニメ「めぐみ」以外にも、活用できる視聴覚映像があります。各視聴覚映像についての詳細は、北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクールのウェブページから確認ができるようになっています。

- ①ドキュメンタリーコミック「母が拉致された時 僕はまだ1歳だった」
※拉致問題対策本部の電子図書館で貸し出しをしています。
- ②動画「北朝鮮による拉致問題を考えるー日本の拉致被害者御家族の訴えー」
※YouTube 拉致問題対策本部公式動画チャンネルで視聴できます。
- ③動画「拉致被害者御家族ビデオメッセージー必ず取り戻す！愛する家族へー」
※YouTube 拉致問題対策本部公式動画チャンネルで視聴できます。
- ④映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」
※拉致問題対策本部がDVDの貸与を行っています。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール（拉致問題対策本部）
(<https://www.rachi.go.jp/jp/shisei/sakubun.html>) を加工して作成

